

主な動物由来感染症

病名	関係する動物	原因	症状
狂犬病	犬・猫・キツネ・アライグマ・コウモリ	ウイルス保有動物に咬まれる	神経症状、興奮と発作 発症したらほぼ100%致死
ねこひっかき病	猫	咬まれる、ひっかかれる	発熱、リンパ節が腫れる
レプトスピラ病	ネズミ・犬	尿中の菌が水を汚染し、傷口から感染	発熱、黄疸、肝障害、腎障害等
パステレラ病	猫・犬	咬まれる、ひっかかれる	皮膚の化膿、リンパ節が腫れる、呼吸器障害
トキソプラズマ病	猫	糞中の病原体が口に入る	流産、死産、胎児の脳水腫など先天性障害
回虫症	犬・猫・アライグマ	糞中の虫卵が口に入る	発熱、肝障害、視力障害
Q熱	野生動物・家畜・猫・犬	糞中の病原体を吸引する	インフルエンザ様症状、発熱、頭痛、筋肉痛
オウム病	鳥類	糞中の病原体を吸引する 餌の口移し	インフルエンザ様症状、発熱、肺炎
エキノコックス病	キツネ・犬・猫	糞中の虫卵が口に入る	腹痛、腹水、肝機能障害
サルモネラ症	犬・猫・は虫類	糞中の細菌が口に入る	胃腸炎、下痢、発熱
カンピロバクター症	犬・ネズミ・鳥類	糞中の細菌が口に入る	胃腸炎、下痢、発熱
皮膚糸状菌症	犬・猫・鳥類	感染動物との直接接触	白癬、脱毛など皮膚障害
疥癬	犬・猫・タヌキ	ヒゼンダニが媒介	皮膚の強いかゆみ、脱毛



動物由来感染症について



人と動物が共生できる
社会の実現のために



和歌山市保健所 生活保健課

和歌山市吹上5丁目2-15

電話: 073-488-5114

FAX: 073-431-9980

電子メール: seikatsuhoken@city.wakayama.lg.jp

和歌山市保健所

ペットから病気がうつる！？

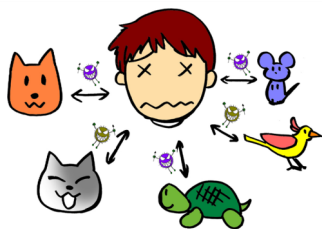
動物由来感染症とは

動物由来感染症とは動物から人に感染する病気の総称です。「人獣共通感染症」や「ズーノーシス」と呼ぶこともあります。

動物由来感染症はさまざまなルートで伝わっていきます。直接動物と触れることで伝わる場合もあれば、野外環境や室内環境で伝わることもあります。また、動物を食べることやダニなどの媒介により、感染することもあります。

感染の原因となる動物は野生動物とは限りません。ペットなど飼養動物から感染する事例も多くあります。

特に、古来からペットとして愛されている犬やねこでさえ、さまざまな動物由来感染症の病原体に感染しているおそれがあり、適切な世話をしなければ愛する動物のみならず自らを感染症の危険にさらすこととなります。動物とその病気について正しい知識を持つことが必要です。



予防するには...

動物由来感染症の予防方法は感染の経路によって異なりますが、総じて次のような方法があります。



●動物との過度のふれあいは避ける

ペットとキスをする、ペットと食器を共有するなどの行為は慎みましょう。通常の接触ならば感染の危険が低い病原体にも感染してしまう危険性があります。逆に、人から動物へ伝播してしまう場合もあります。



●動物とふれあったあとは手を洗う

動物は、自身には病気を起こさなくても、人に病気を起こす病原体を持っていたり、動物の毛にカビの菌糸や寄生虫の卵等がついていることがあります。また知らないうちに動物の唾液や傷口等に触れてしまうこともあるので、動物に触ったら必ず手洗いをしましょう。



●ペットの住環境を清潔にする

動物由来感染症の病原体は尿やふんに含まれていることも多いので、ペットの住居(小屋、カゴ)などはまめに清掃して清潔を心がけましょう。また、ペットから抜け落ちた毛などにも病原体が潜んでいることがあります。



●ペットの病気予防をする

ワクチンや駆虫薬などによりペットの病気を予防することで、人への感染も防御できます。また、ノミやダニなどもさまざまな動物由来感染症を媒介しますので、ペットにつかないよう予防しましょう。定期的に動物病院で診てもらうことをおすすめします。

※毎年必ず狂犬病予防注射を受けましょう。

●野生動物には近づかない

野生動物はどのような病原体を持っているかわかりません。野生動物にはむやみに触らないようにしましょう。また、野生動物保護の観点からも、野生動物の飼育は避けましょう。

●虫に刺されないようにする

カやノミ、ダニなどの吸血する虫は動物由来感染症を媒介することがあります。野外活動をするときは、長袖や長ズボン、長靴などで防御しましょう。また、カの活動が活発な夕方などに外出しない、蚊帳を使う、室内の防虫をこころがけるなどの方法があります。

